

自分で守る  
みんなで守る  
防災教育

# 小学校

- Case 2 防災かるた
- Case 3 避難所設営体験
- Case 4 非常食調理
- Case 5 煙体験、津波実験

7

## Case 2 防災かるた（1・2年生：国語、特別活動）



防災かるたをならべています。



かるた取りをしています。

- **ねらい**
  - ・地震や津波、火山、気象など、北海道の自然災害や、必要な防災知識を確認させる。
  - ・確認した知識をもとに、「なぜその行動が必要か」を考えさせる。

- **内容**
  - ・誰でも楽しめる「かるた遊び」を通じて、北海道の自然災害のリスクや防災に関する知識を学びます。

- **関係機関の協力**
  - ・市町村防災担当部局や振興局職員が司会進行、解説

8

## Case 3 避難所設営体験（3・4年生：総合的な学習の時間）



段ボールベッドを組立てています。



段ボールベッドの使い心地を確かめています。

- **ねらい**
  - ・災害時に学校が避難所になることを理解させ、避難時の行動を学ばせる。
  - ・新型コロナウイルス等感染症拡大防止を踏まえた避難生活を考えさせる。

- **内容**
  - ・学校が避難所になることを想定し、体育館で段ボールベッドを組み立てます。
  - ・新型コロナウイルス等感染症拡大防止のため、2メートル間隔でベッドを配置するなど、区画整理を考えます。

- **関係機関の協力**
  - ・市町村防災担当部局や振興局職員がベッド組立を説明

9

## Case 4 非常食調理（5・6年生：家庭科）



ハイゼックスに米を入れています。



水を入れ、米を炊く準備をしています。

- **ねらい**
  - ・調理体験を通じて、ライフラインが途絶えた状態での避難生活について考えさせる。
  - ・少量の水での調理や、食器を使わず調理できることを体験し、被災時の水の大切さについて学ばせる。

- **内容**
  - ・米と少量の水で炊飯できる炊き出し袋「ハイゼックス」を使って調理します。
  - ・道作成の「北の災害食レシピ」をもとに、災害食について学びます。

- **関係機関の協力**
  - ・市町村防災担当部局や振興局職員が調理の説明

10



煙の中を避難しています。

### ○ 煙体験

- ・ 発災時にあわてず行動することの重要性を学びます。
- ・ 地震等の自然災害による火災を想定し、煙の中での避難行動を体験します。



津波発生の仕組みを学んでいます。

### ○ 津波実験

- ・ 津波の速度や繰り返し襲ってくることを視覚的に理解し、避難行動の重要性を考えます。
- ・ 実験を通じて津波発生の仕組みを学びます。

11

## 成果・関係機関の助言

### ○ 児童の声

- ・ 災害に備えて、家でも準備できることを考えようと思いました。
- ・ 自分の命は自分で守らなければならないことがわかりました。
- ・ 津波の怖さを理解し、「津波てんでんこ」の大切さを感じました。

### ○ 教職員の声（児童の変容や工夫点）

- ・ 毎年、1日防災学校を実施することで、児童の防災意識が高まっている。教職員も緊急時の行動について考える機会となり、学校全体の防災意識向上につながった。
- ・ 関係機関には、児童が自分たちでできることを意識できるような指導を依頼し、連携して取り組んでいる。
- ・ コミュニティスクールの取組の一環として行うことで、地域や保護者の積極的な参加が見られた。

### ○ 関係機関の助言

- ・ 子どもたちが主体的に判断して避難できる取組が必要です。
- ・ 学んだことを家族と話すなどして学習を振り返り、災害時に避難できるようにすることが大切です。

自分で守る  
みんなで守る  
防災教育